

2021年11月10日版

われわれ日本民衆から、本質交流の渦^{うづ}を、興せるか？

地球公会創出研究

www.jomaca.join-us.jp/soushutsu211110.pdf

JOMON^{縄文}あかでみい校長 山田^{まなぶ}学

※本稿は、以下の2本（ともに2021年5月17日版）の内容も、含め、吸収しました。〈縄文^{縄文}るねっさんす会議始動。〉〈あなたが想ふ未来！〉
諸民族の調和へ、それを仲介させていただく、日本民族。お肚^{なか}の底からの、声とするため、旧かなにて、書かせていただきました。

はじめに

本稿は、新しい社会活動へ、簡潔を旨とする、初稿です。本にすれば、何十冊分の、49年間の蓄積が、紙背に、あります。しぼりに、しぼりました。運動の幹部を、理論にて組織する、思索先導の表現です。民衆を、情念と行動にて組織する、情念先導の表現、これについては、順次、ご用意いたします。新しい思想の生成は、独自用語の生成も、ともなひます。この短文では、独自用語の解説が、不足してあるかもしれません。まづは、〈ひとつの謎〉としてでも、ご記憶を、いただけませんか。

本稿の内容を、一面からのみ、まとめることは、できません。

〈地球公会創出〉といふものは、一面ではない、のです。

実に、〈五面の区別と連関〉、なのです。以下、（ ）内は、本稿の各項の題名。

一。未来にある協同、それは、思考統合の面にて、学問発達体です。（〈眞智〉）

二。未来にある協同、それは、生体協力の面にて、生産調和体です。（〈聖愛〉）

三。未来にある協同、それは、情感安定の面にて、道徳共同体です。

（〈生理化〉）

四。未来にある協同、それは、情念融和の面にて、民衆通信です。

（KJ法とICT）

五。情念融和のため、政治解消世論といふものも、結集する。

（もうひとつの、公共）

結び。民衆から、〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。さういふ、厳格さへ。

（思索と情念の集りへ）

〈眞智〉

地球社会において、通信と、金融と、運輸と、建築が、発達してゆく。

すると、とても残念ながら、それぞれ、特定領域の、諸国家といふものにも、

限界が、生じ始めた。

なら、地球公会の創出、その可能性こそを、民衆から、研究しあひませんか。ICT (情報通信技術) 大企業などによる、監視と制御から、ではなく。

地球公会において、指導者や運営者と、民衆が、まともに調和するには、必要な、条件があります。

指導者や運営者と、民衆が、ともに、〈眞智〉を、追究しあふ。〈眞智〉とは、健康平和な、現実の認識、といたします。健康平和とは、どういふことか、ほんたうに、現実を認識してあるか。むろん、自由に、批評しあひますが。

実は、地球人、ひとりひとりに、〈眞智〉、すなはち、健康平和な、現実の認識、これがあります。当面、〈邪智〉、すなはち、病的戦争な、架空の認識 (といたします)、それもあります。

指導者や運営者と、民衆が、まともに調和するため、人間は、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、これの前に、平等であるといたします。指導者や運営者と、民衆が、それぞれの〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、のみを、調和させあひます。それぞれの、さまざまな生活や生産、から、調和させあひます。

では、なぜ、ひとりひとりに、当面、〈邪智〉、病的戦争な、架空の認識、それもあるのか。

この数千年間の、人間社会にて、必要であつたからなのです。この数千年間の、諸民族の闘争や、資産階級の闘争、そのために、必要であつたからなのです。この数千年間は、どの国家に限らず、指導者や運営者と、民衆が、実は、〈邪智〉にて、とりつくろひあふ関係、なのでした。

地球社会において、通信と、金融と、運輸と、建築が、発達してゆく。

諸民族の闘争から、諸民族の調和へ。資産階級の闘争から、資産循環の調和へ。民衆から、数千年ぶりの大転換へ、接近する条件も、実は、発達してゐます。〈邪智〉から^{げだつ}解脱しあひ、いよいよ、〈眞智〉にて、まともに調和しあふ。地球公会創出の、その可能性についてこそ、研究をしあひませんか。

〈邪智〉にて、とりつくろひあふ関係から、解脱してゆく。

〈眞智〉に徹すると、ひとりひとり、〈世界対応の自由〉、これも、拡張していきうるのです。ひとりひとりが、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識の、〈学問と技能と規律と体力〉、これを、自分に増す。さうして、〈世界対応の自由〉、これを、拡張していく、のです。

ところで、わたくし自身 (1956年3月生れ) は、学者風なのですが、先述の、民衆から、数千年ぶりの大転換へ、接近する条件を、発見できたのです。なぜなら、いはば、〈邪智〉時代の、今までの学界と、無縁だから、なのです。わたくしは、20歳代前半、コンピュータと人間の関係に、深く深く、悩みました。あへ

て、学界にとらはれず、自分なりに思ふ存分、追究しようと、在野の学者を、志したのです。最終学校歴は、東京大学工学部中退でございます。そして、それ以降も、自分が眞剣に、師として学び続けてをる、9名の方がたが、全員日本人なのですが、1~2名の方を除き、学界の権威ではない、のです。

さういふ、わたくしから、大転換への、指導とは、どういふものか。運営とは、どういふものか。まったく新鮮な、視野と方針を、ご提供させていただきます。

さて、人間は、世界のすべてを、認識し尽すことは、できません。また、世界のすべてを、認識しうる存在、それを、あへて想定する必要も、ありませんでせう。たかだか、この数万年間、さまざまな生活や生産、から、世界の部分を、認識してきました。これからも、同じことなのです。そのことに、感謝いたします。

それでも、世界は、あるいは、世界の諸分野は、現象と構造と本質の統一、です。ひとりひとりには、それぞれ、さまざまな生活や生産、から、現象の認識や、構造の認識や、本質の認識が、あるのです。それらを、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識、まさにこの立場から、自覚的に、組織していきあふ。つまりは、〈眞智〉の世界学を、発達させあふ。未来にある協同、それは、思考統合の面にて、学問発達体です。

民衆は、比較として、現象の認識が、強い。運営者や指導者は、比較として、構造の認識や、本質の認識が、強い。さういふ、役割分担としての、社会組織論であります。

〈聖愛〉

〈眞智〉により、〈聖愛〉しあふ。〈聖愛〉とは、健康平和な、生活協力、といたします。〈眞智にて聖愛〉。数千年ぶりの大転換へ、とは、その悦びへの、勇気なのです。おたがひの生活と人生、それぞれの個性を、尊重しあふのです。

〈聖愛〉、すなはち、健康平和な、生活協力こそを、発達させる。とともに、〈俗争ぞくさう〉、すなはち、病的戦争な、生活妨害（といたします）は、衰退させる。〈聖愛〉と〈俗争〉の、対立と連関、です。

健康平和な生活の、生産力こそを、発達させてゆく。とともに、病的戦争な生活の、生産力は、衰退させてゆく。発達させる生産力と、衰退させる生産力の、対立と連関、です。文明開化にあつた、善と悪の、対立と連関、です。

労働力、といふ商品。通常商品。貨幣、といふ商品。これらを、媒介とし、地球人おたがひの、健康平和な生活、これをこそ、生産しあつてゆく。

今の生産力が、新しい生産関係を、要請します。病的戦争な生活の、生産力による、被害者！ かれらこそが、健康平和な生活の、生産関係を、要請してゆく、のです。

未来にある協同、それは、生体協力の面にて、生産調和体です。

家庭とは、協会です。恋愛と出産と保育と教育といふ、特殊な労働、それと、生活の休養面、これらのための、協会です。さう、考へませう。

同好会とは、休養協会です。職場の分業労働、これを修正する、保健的な労働、また、職場の分業認識、これを修正する、保健的な認識、これらのための、休養協会です。さう、考へませう。

職場とは、生活の労働面のための、協会です。地球人おたがひの、健康平和な生活こそを、目的とする、生産調和体。それへ向け、自由に創造してゆく。さう、考へませう。

家庭と同好会と職場の毎日。地球の諸域の毎日。において、おたがひの健康平和な生活こそを、研究しあふのです。健康平和な需要、それを発見しあひ、それらに有効な供給こそを、開発しあふのです。ケインズ発想の、逆なのです。しだいに、人間社会の供給体制を、希少者の、資産増殖といふ目的から、全員の、資産循環といふ目的へ、再編してゆきあふ。次の社会への、再編！ むろん、供給体制の根本として、地球環境のあり方が、あります。最低費用にて、野性の復興を、しませう。また、ICT (情報通信技術)。クラウドや、PC・モバイルや、AIや、ロボットや、IoTなどの、開発可能性。これについても、未来にある協同への、意識と責任から、判断していきませう。AIやロボットなどが、便利な道具と、なるにつれ、人間側にて、生活や人生の本質が、考究されます。

〈生理化〉

数千年ぶりの大転換へ、ひとりひとりの生活を、〈生理化〉していきます。〈生理化〉とは、次といたします。苦しみ悩みこそを、導きの糸とします。自身の生理のままに、生活を修正する。さうして、楽しみ悟りに、接近します。ひとりひとりの、四六時中瞬間瞬間にて、個性別の、苦しみ悩みも、生ずる。それをこそ、導きの糸とします。自身の生理のままに、生活を修正する。生活は、全面です。姿勢動作、呼吸、食事と排泄、人間関係とくに異性関係、精神、生活環境。この、全面です。自身の生理のままに、生活の全面を、修正する。すると、個性別に、楽しみ悟りに、接近いたします。人間の、健康平和、すなはち、からだところの健康と、ところと社会の平和には、自身の生理のままに、生活を修正する。このことが、必須です。保健は、^{くだう}求道であり、修業なのです。生体の各部分の協同を、回復し、保持します。地球人がおたがひ、安心の呼吸を、追求しあひます。

〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。これを、実行しあひます。

さて、この数千年間の、諸民族の闘争や、資産階級の闘争にて、ひとりひとりの〈生理化〉は、実は、解放されなかつたのです。ひとりひとりの生活が、^{あくごふ}〈悪業

化〉されたのです。〈悪業化〉とは、次といたします。諸民族の闘争や、資産階級の闘争にて、ひとりひとりの〈生理化〉が、抑圧された。苦しみ悩みを、「有つてほしくないもの」とし、逃げることこそが、すすめられた。苦しみ悩みといふ、導きの糸を失ひ、保健、求道、修業が、抑圧されたのです。生体の各部分が、不調和となつた。悪業となつた。すなはち、姿勢動作のゆがみ、呼吸の不完全、食事や排泄の悪習、人間関係の無理、精神の誤り、生活環境の不適…。そして、他物への頼りすぎ…。

いよいよ、この数千年間の、〈悪業化〉から解脱し、ひとりひとりの生活を、〈生理化〉していきませう。導きの糸たる、苦しみ悩みこそに、感謝いたします。〈苦しみ悩みに感謝します。〉これが、大転換への、入門なのです。

さうして、ひとりひとりの〈生理化〉こそが、諸民族の調和への、資産循環の調和への、土台なのです。

ひとりひとりの〈生理化〉による、生活修正こそが、保健、求道、修業こそが、すなはち、個性別の、道徳です。未来にある協同、それは、情感安定の面にて、道徳共同体です。道徳といふ生活規範は、個々人に、属するのです。道徳共同体の運営や指導にて、可能なのは、道徳そのものでありません。道徳案、道徳の提案のみなのです。道徳は、他から、おしつけられるものでありません。

ひとりひとりの〈生理化〉は、生理的進化としての、体内感覚に、もとづきます。快か、不快か。体内が、調和してゐるか、ゐないか。そして、無といふ、理想。不快が、無い。体内の不調和が、無い。これを追求する、理想です。苦しみ悩みこそを、導きの糸とします。姿勢動作は、これでよいか？ 呼吸は、これでよいか？ 食事と排泄は、これでよいか？ 人間関係とくに異性関係は、これでよいか？ 精神は、これでよいか？ 生活環境は、これでよいか？ 自身の生理のままに、冥想いたします。生理にしたがふ、悦びです。呼吸は、楽か？ 脈は、ととのつてゐるか？ 気分は、よいか？ 安眠も、工夫いたします。

世界の現実を反映してゐる認識、それが、現実の認識です。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識です。ただし、人間の健康平和にとり、それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることも、あります。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、あります。

おたがひの実力不足を、お詫びしあひつづけませう。生活と生産の、すべてのご縁を、ありがたく、受け取りつづけませう。地球人はおたがひ、世界、すなはち、体内と体外と認識したい、すなはち、生活と生産と自然と宇宙、に、感謝し、対応ないし適応していきませう。

食欲や、性欲や、資産欲や、地位名誉欲。それらの量を、希少者としてのみ、悲しく、高めるより、それらの質こそを、全員協同として、楽しく、高めあふ。

さう、いたませう。

KJ法とICT

今、資本制人間社会は、末期にあります。米国も、中国も、経済と政治が、不安定です。(結局、米国にも、中国にも、本質解決は、不可能でせう。昔の、ナチス風や、ソ連風などを、再現してみても、無理がある。)

日本社会にて、わたくし、山田 学が、思索と情念の体系を、準備してをります。

諸民族の調和へ、資産循環の調和へ、地球公会の創出が、どう可能か。

本格の変革は、意外なところから、閑かにしか、出現いたしません。たとへば、自由に探検し、情報を集めます。それら情報を、内容本位にて、自然に編集していきます。すると、既成の思ひ込みなどから、解脱することも、多いです。集める情報が、民衆のさまざまな声であれば、民衆参画の方法です。

さて、KJ法と称する、上の、思索と情念の技能・技術、これは、民族地理学の、川喜田二郎師 (1920~2009) が、まづ、その学問の必要から、創始されました。

ところで、このKJ法の、〈内容本位にて、自然に編集していく〉過程が、ICTの、OSないしAPIなどの水準にまで、まだよく浸透してゐない。さうとも、考へられます。

思索と情念の体系を、準備した、わたくしの研究事務は、基本、KJ法とその応用なのです。

日本民族の伝統を、反省します。諸民族の調和へ、仲介のあり方も、創造します。民族地理学とKJ法も、活用しつつ、さうします。民衆参画の方法として、未来にある協同、それは、情念融和の面にて、民衆通信です。とくに、指導性や運営性と、民衆参画を、調和させてまゐります。

一方、ICTです。〈生理化のため眞智にて聖愛〉。かういふ、根源発想の、指導性と運営性。これが、ICT上にも、わかりやすく活動するやう、交流と組織のためのICTを、変革していきたいです。残念ながら、今までのSNSなどは、衆愚傾向が、助長されてゐるのではないか。(その上にて、監視と制御の、助長…。)

破壊のための、煽動より、創造のための、熟議。そして、それを促進する、新たなICTこそがほしいです。

なほ、現状を批判してゐるだけで、よい。さういふ人は、ある意味にては、怠け者なのかもしれません。

未来にある協同への、意識と責任においてこそ、社会 (これはすなはち、規範と学問と祈りと芸術と養生の指導) の、さういふ全体構成観から、必要な、ICT開発を、していきたいです。未来にある協同への、意識と責任は、前人未踏状態。

この前人未踏状態から、悠久壮大水準にて、効率よく、ICT開発を、していきたいです。「DXにより経済成長を」なんぞと、近視眼ではなく、日本社会と地球社会の、成熟方針として、本質的かつ柔軟な、基礎情報学を、望みます。

思索と情念の集りへ。いよいよ、[次の別の地球へ夢なかま]に、なりませんか。

なほ、「優れた統計器」たる、今のAIに、さらに、人間が、〈眞智〉、健康平和な、現実の認識による、世界の分類や、世界の部分の分類を、書き込む。それにより、熟議こそを、促進したいです。

もうひとつの、公共

既成の諸国家に、とらはれる必要は、ないのです。未来にある地球協同への、意識と責任から、われわれが、保護され、推進される。そのやう、既成の諸国家には、対応してまゐります。

この数千年間。国家といふものは、誠に残念ながら、部族ないし民族闘争と、資産格差拡大のための、組織として、発展しました。社会の敵対性こそを、保護し統制する、伝統でした。

逆に、社会の敵対性、そのものを、しだいしだいに、解決してゆく。さういふ、もうひとつの、公共! これをこそ、民間から、創造する。さうして、まゐりませんか。情念融和のため、です。(たとへば、ロシア・北朝鮮・中国などと、戦争をしたい。その謀略も、絶対に、阻止いたします。) 既成の国家や政治。これについて、未来にある地球協同へ、継ぐべき内容は、保存し、問題な形式は、否定する。すなはち、政治解消世論といふものも、結集する。さうして、いきあひませんか。

闘争から、調和へ。民衆の生理の、必然として。

資産格差の拡大といふものは、〈信用寄付〉によつてのみ、解決するのです。ただの寄付では、不可です。〈信用寄付〉とは、次のみに、活用されることが、保証されてゐる、寄付です。すなはち、健康長寿を生産しあふ、流通。野性の復興。諸民族の調和。これら、です。

なほ、地球人は、宇宙にて、後進生物にすぎませぬ。

さうして、異星人に、教へてもらつた、などの、未来的な、エネルギー技術などが、すでに、米軍の裏などに、ある。さういふ説も、ございます。

思索と情念の集りへ

わたくし、山田 学の、他に類をみぬ、思索と情念の豊かな体系が、なぜ、あるのか。そして、なぜまだ、孤高の準備に、すぎぬのか。(ある意味、隠された

状態です。)

わたくしは、16歳 (=高校2年生時) から、自由に、学問をしてまゐりました。
ある意味にて、超常現象的に！

アリストテレス、ヘーゲル、マルクス、エンゲルス。

続いて、三浦つとむ、滝村隆一、吉本隆明、渥美俊一、高橋五郎。

一方、シャカ、ガンジー。

続いて、沖 正弘、川喜田二郎、庄司和晃、山田^{としを}俊郎。

これが、実は、今は忘れられた、学問と、修業の、王道なのです。(パトランド・ラッセル以降、まともな意味の、哲学性や、宗教性が、忘れられてゐます。これでは、QOL Quality of Life、生活や人生の質に、限界あり。)

上記、日本人9名の師は、わたくしが発見した、未来への師たちであります。ただし、学界といふより、在野の士が、多いのです。

9名のうち、わたくしの実父・山田俊郎師が、発明した、〈TQ技術〉をめぐる営業が、わたくしの、主な収入源であります。この〈TQ技術〉は、氣功の工業化であり、アジア診療の結晶点であります。

JOMON^{縄文}あかでみいサイト www.jomaca.join-us.jp は、この〈TQ技術〉の社会化と学問化のため、総合研究記録として、発達させてをります。結果、〈地球公会創出研究〉としても、発達してをるのです。〈TQ技術〉といふ未来技術を、棲みやすくする、未来にある協同への、研究です。

昨年から、コロナ禍その他が、ありました。わたくしどもは、〈TQ技術〉より、〈地球公会創出研究〉のほうに、重点を置き始めたのです。本年7月後半、新型コロナワクチンが、予想以上に、問題含みと、気づきました！ ので、本稿の執筆と公開を、急いだのです。(地球民衆の覚醒と協同を、急ぐ！)

JOMON^{縄文}あかでみいは、任意団体でございます。法的には、山田 学 (本名・山田^{てつ} 哲) の、個人事業でございます。

山田 学 (哲) は、日本国民であり、横浜市民であり、経営する有限会社の本店は、名古屋市にございます。それらの法律や条例による、統制と保護のもとに、ございます。ですが、それ以外、わたくしに命令する者は、をらないのです。なにかを、疑つても、無駄なのです。今の社会における、独立事象です。

在野の学者をめざした、山田 学 (哲) が、孤高なのは、わたくしの、思索と情念の体系が、今は、たまたま、非常識と異端、だからでせう。むろん、わたくし自身は、常識人に頼れぬ、ととてもとても狭き門にのみ、ひとすぢの希望があると、冥想しつつ、すべてを、推進してまゐりました。

地球社会の現状が、本稿の執筆と公開を、決断させたのです。CFR (外交問題評議会) や、ダボス会議などによる、(聖書にとらはれた)「終末演出」や、「世

界政府」や、「新世界秩序」などには、〈大転換への悟り〉が、ありません。(欧米や中国などの、エリートは、現行のICTや、遺伝子工学などに、とらはれすぎてゐませんか。)

民衆から、〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。さういふ、厳格さへ。

山田 学の、思索と情念の体系を、次の社会への、思索報道ないし情念報道として、交流と組織を、発達させたいです。(この新しさを、明るみに、出したいです。) ICTによるやりとり、ICTによる面会、実際の面会、合宿など。これらにより、協力していただけませんか。民衆健康平和連帯！ これを構築する、といふ、問題解決。今でなく、未来の、常識と正当へ、つづけ！ 人間社会発達の、新機軸です。

*

〈生理化のため眞智にて聖愛〉。根源発想の、交流と組織のための、新しいICT開発も、したい。しかしそれは、将来の話です。今はさしあたり、本稿に関心、興味、反発などのある方がたから、山田 学の以下の連絡先へ、直接、ご連絡をいただけませんか。

(メール) arigatou@image.ocn.ne.jp

(FAX) 045-319-0920

(郵便) 〒221-0822横浜市神奈川区西神奈川1-13-14-307 山田 学

山田 学の非公開メールを、ご存じの方は、そちらへでも…。

JOMONあかでみい (任意団体) の、中心活動として、〈地球公会創出研究〉に、協力していただけませんか。

山田 学の、思索と情念の体系を、活しつつ、〈地球公会を創出していく〉可能性。それについて、研究しあひませんか？ 無理なく、無駄なく、一定の実行も、しあひませんか？

〈生理化のため眞智にて聖愛〉。根源発想を、理解しあひ、無理なく、無駄なく、実行しあひませんか？

われわれ日本民衆から、本質交流の渦を、興せるか？ (この20年あまりの、売国的な日本政治から、解脱するためにも…。戦後の経済復興にて、さしあたり、“あとまはし”にした、思索と情念といふ、^{うづ}インフラ整備こそを、いたしませう。)

さて、〈地球公会創出研究〉のための、ICTによる面会、実際の面会、合宿などを、〈縄文るねっさんす会議〉と、称することもございます。日本民族の伝統を、反省します。諸民族の調和へ、仲介のあり方も、創造します。日本民族の野性の復興、これの表明として、〈縄文るねっさんす〉なのです。欧米流や、中国

流ではなく、縄文流にて、地球平和へ！

未来にある地球協同へ、思索と情念の集りへ、まづは、次の、悠久壮大な質問から、入門していただきます。

第1問【本稿】

本稿〈地球公会創出研究〉www.jomaca.join-us.jp/soushutsu211110.pdf を、ゆつくり、ゆつくり、お読みいただけませんか。

これは、未来にある地球協同への、ご提案なのです。あなたは、このご提案を、ほんねにて、どう想はれますでせうか。

第2問【信念】地球の未来は、かうなる… あなたの、信念のやうなものは、ございますでせうか。

第3問【UFOなど】UFOや異星人について、どう、想ひますか？

第4問【諸民族】諸民族が、調和できると、想ひますでせうか。いつかは、調和できるとすれば、あなたなら、なにをしますでせうか。

第5問【資産格差】地球の資産格差を、縮小できると、想ひますでせうか。いつかは、縮小できるとすれば、あなたなら、なにをしますでせうか。

第6問【環境】地球環境を、整備できると、想ひますでせうか。いつかは、整備できるとすれば、あなたなら、なにをしますでせうか。

第7問【質】人生の質、生活の質とは、なんですか？ それを高めるため、あなたなら、なにをしますでせうか。

第8問【日本民族】日本民族を、どう、想ひますか？ 未来にある地球協同に、寄与できると、想ひますでせうか。

第9問【政治】政治の今後は、どうすれば善いと、想ひますか？

第10問【報道など】マスメディアやインターネットの今後は、どうすれば善いと、想ひますか？

次に、展開の推進、でございます。山田経営の有限会社を起点とする、〈TQ技術〉をめぐる営業、これとは別に、資金余裕のある方からは、JOMONあかのみへ直接、ご寄付も、いただけませんでせうか。〈地球公会創出研究〉の展開を、より推進させていただきます。感謝すべきその場合、ご寄付のお振込は、次の銀行口座に、お願いいたします。

三菱UFJ銀行 横浜駅前支店 普通預金 3100071 ヤマダ テツ 山田 哲

その際、必要なお連絡は、先述の連絡先へ、お願いいたします。

＊

未来にある地球協同へ。思索と情念の集りへ。〈大転換への悟り〉！ 〈地球

公会創出研究〉、これこそを、先進の好感事業に、育てていただけませんか。か。(希少者の、金融業から、全員協同の、公会創出事業へ!) 本稿を起点に、本格の変革を、閑かに、ひろめていただけませんか。むろん、最終責任は、わたくしが、とります。わたくしは、救世主ではありません。ひとりひとりが主役、さういふ民衆救世協同、これこそを、運営させていただき、指導させていただく。そのつもりで、ございます。それにふさはしい、人間本位の、新しいICT開発とともに!

以上は、簡単ではありません。が、未来への安心の、本質なのです。次の社会への、大欲なのです。

今は、末世。米国を中心に、さまざまな情報戦において、むしろ、〈邪智〉、病的戦争な、架空の認識を、“マーケティング手法”により、なにげなく、売り込んでしまふ。それこそが、助長されてゐます、今の、末世…。ドナルド・トランプを、先頭とした、米国民衆抗議に、つづきませう。かれらだけでは、不足してゐますから。

純情な、性善説の、試みを。“リセット”ではなく、渾沌をして、語らしむ。この、日本流を。

未来の世界を日本から!

をはりに

本稿の根源発想は、結果、沖ヨガ風=ヨガの沖 正弘師 (1919~1985) の根源論理に、学ぶ傾向と、なりました。

民衆から、〈生理化のため眞智にて聖愛〉しあふ。さういふ、厳格さへ。

地球の未来は、〈沖ヨガ本来の根源論理の復興〉以外に、可能性はないと、わたくしは、考へるところとなりました。逆から言へば、沖ヨガ風といふ、ひとすぢの! 希望が、ございます。

まづは、(聖書や、現行ICTや、遺伝子工学などに、とらはれた) ダボス会議などには、想ひもよらぬ、新しい発想原理を、提出する。このことから、本質対抗を、はじめました。

世界を、一面からのみ、観てはいけません。世界には、いくつもの面があり、〈諸面の区別と連関〉を解明していく、このことこそが、本質論なのです。

ドイツのヘーゲル (1770~1831) にとり、このことは、常識でした。これを否定してしまひ、「現代哲学」を、出発させてしまつた。その人が、イギリスのラッセル (1872~1970) です。ラッセルは、数学者出身。世界を一面からのみ、観て、「無矛盾」を、夢想しました。あるいは、大英帝国の地球支配、それにとり、ラッセル思想も、必要だつたのでせう。

実は、今のICTも、論理としては、ラッセルの弟子です。結果、さまざまな矛盾に、ぶつかつてゐます。

本稿8頁に、わたくしの9名の日本人師匠を、挙げてをります。わたくしの半生の、時代性でもあります。左翼系（三浦つとむ、滝村隆一、吉本隆明など）と、右翼系（沖 正弘、川喜田二郎など）の、交流が特徴です。

わたくしは、今の学界やマスメディアにおいては、ばらばらに、扱はれるしかない、9名師匠の、区別と連関につき、何年も、何十年もかけて、解明してまゐりました。統合することが、できました。ここに、わたくしの独創性も、あると、考へます。すなはち、日本民衆の底力について、まづは、思索と情念の水準にて、まとめあげた、といふわけなのです。これは、ヘーゲルに学んだ、本質論を、地球の未来のためにこそ、実行してをる、といふことでもあります。

親しく学ばせていただきました、縄文時代研究の、齋藤守弘先生は、山田流の思索を、「アクロバティック」と、称しました。実のところ、わたくしの精神の、過去の大激動！は、9名師匠の区別と連関を、何年も、何十年もかけ、解明していった、その過程にこそ、ございます。お蔭様にて、今のわたくしの精神には、躍動の悦び（＝諸分野へ自由往来する悦び）しか、ないのでございます。

ラッセルでない、ヘーゲルに学んだ、わたくしの視座からこそ、創造のための、熟議と、それを促進する、新たなICTが、ほしいです。未来の社会組織のあり方を、考へても、今までのSNSなどとはまた別の、ICT開発こそが、必要なのです。これはまた、話題のAIやロボットなどとも、別の道です。

今の通信のあり方とは、別の道にて、大きな渦を、興してゆきたいのです。むろん、すぐにはできぬし、最高級のICT関係者に、相談しようと、考へてをります。

さしあたり、本稿のみで、関心、興味、反発などを、連絡して下さつた方がたを、初発協力者と、させていただきます。山田 学の思索と情念の体系と、それらの貴重な方がたの、半生との、対話。これにより、もっとも着手しやすい具体活動から、企画してまゐりませう。つまり、具体活動は、協力者の個性に、左右されるのです。具体活動の、あらゆる可能性を、否定せぬため、初稿としては、あへて、具体活動を、示してはをらないのです。あなたにこそ、期待いたします。

なほ、本稿8頁に記した、〈TQ技術〉といふ新技術運動の、〈TQ展開〉総合管理にて、本稿を、よりひろくより深く、理解して下さる方がたを、優先尊重させていただきます。本稿は、〈TQ技術〉といふ未来技術を、棲みやすくする、未来にある地球協同への、研究です。

〔文献〕本稿執筆のため、以下の文献を、参考としてをります。

〈地球社会の現状について〉

ベンジャミン・フルフォード『一神教の終わり悪魔の13血族とバビロニア奴隷管理帝王学の崩壊』(秀和システム2021年8月)

副島隆彦監修・西森マリー著『世界人類の99.99%を支配するカバールの正体』(秀和システム2021年7月)

西森マリー『新版 ディープ・ステイトの真実日本人が絶対知らない アメリカ“闇の支配層”』(対談・副島隆彦／秀和システム2021年7月)

高橋 徳・中村篤史・船瀬俊介『知らないほうが……幸せかもしれないコロナワクチンの恐ろしさ良心派医師が心底憂慮する理由』(成甲書房2021年7月)

高島康司『グレート・リセット前夜2025年の世界と支配者たちの最終工作』(徳間書店2021年4月)

斎藤幸平『人新世の「資本論」』(集英社新書2020年)

増田悦佐『資産形成も防衛もやはり金だ』(WAC BUNKO2021年2月)

吉田繁治『臨界点を超える世界経済通貨と金をめぐる4大危機に備えよ』(ビジネス社2019年)

吉田繁治『アフターコロナ 次世代の投資戦略財政・金融の危機を資産づくりのチャンスに変える』(ビジネス社2020年)

吉田繁治『新しいチェーンストア戦略 新装改訂版大閉店時代に勝ち残る唯一の方法』(ビジネス社2021年1月)

小阪裕司『「顧客消滅」時代のマーケティングファンから始まる「売れるしくみ」の作り方』(PHPビジネス新書2021年3月)

原 丈人『「公益」資本主義英米型資本主義の終焉』(文春新書2017年)

深田萌絵『ソーシャルメディアと経済戦争』(扶桑社新書2021年5月)

〈ICT (情報通信技術) の基礎について〉

坂村 健『痛快！ コンピュータ学』(集英社文庫2002年)

坂村 健『イノベーションはいかに起こすかAI・IoT時代の社会革新』(NHK出版新書2020年)

坂村 健『DXとは何か意識改革からニューノーマルへ』(角川新書2021年4月)

西垣 通『新 基礎情報学機械をこえる生命』(NTT出版2021年6月)

黒川伊保子『人間のトリセツ人工知能への手紙』(ちくま新書2019年)

〈人間の健康と平和について〉

沖 正弘『生きている宗教の発見だけでも悟り救われる沖ヨガ修行法』(竹井出版1985年)

沖 正弘『ヨガ総合健康法沖ヨガの考え方と修行法(上)』(地産出版1976年)

沖 正弘『なぜヨガで病気が治るのかヨガ総合健康法(中)』(地産出版1977年)